

千葉県八千代市

上ノ山遺跡 d 地点

—宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

2022

中 墓 昭

八千代市教育委員会

凡 例

1. 本書は、八千代市教育委員会が令和2年度民間開発等埋蔵文化財発掘調査事業として実施した発掘調査の報告書である。報告書作成作業は令和3年度事業として行った。
2. 本書に収録した発掘調査は宅地造成に伴うもので、事業者である中基 昭氏の委託を受けて実施した。
3. 遺跡名は、上の山遺跡、所在地は千葉県八千代市菅田町字上ノ山927-1の一部、927-5、927-6、927-7である。
4. 調査及び整理は、以下のとおり実施した。

確認調査	上の山遺跡d地点として実施した。			
期間	令和元年9月17日～令和元年10月3日	面積	248㎡/3,037.38㎡	
本調査	期間	令和2年4月20日～令和2年7月1日	面積	1,275.38㎡
本整理	期間	令和3年5月14日～令和4年3月31日		
5. 遺構No.は、数字と記号の組み合わせで標記した。記号は以下のとおりである。また、遺構検出時に付した遺構No.をそのまま使用している。

土坑	P	竪穴建物跡	D	炉	R
----	---	-------	---	---	---
6. 遺構・遺物の縮尺は、原則として下記のとおりである。写真図版については縮尺不同である。

〔遺構〕土坑	1/40	竪穴建物跡	1/60	炉	1/20
〔遺物〕石器・石製品	1/1	土器片	1/2	土器	1/3
8. 参考文献は第3章末にある。
9. 出土した遺物のほか、写真・図版等の調査資料は、八千代市教育委員会が保管している。
10. 本書の図版作成は、調査補助員と宮下が行い、執筆を宮下が行った。



八千代市の位置



上の山遺跡の位置
(国土地理院発行5万分の1地形図に加筆・編集)

目次

凡例

目次

挿図目次

写真図版目次

第1章 調査経過及び概要

- 第1節 調査に至る経緯……………1
- 第2節 調査の概要……………1
- 第3節 上の山遺跡の概要……………1

第2章 検出された遺構と遺物

- 第1節 縄文時代……………5
 - 第2節 弥生時代……………6
 - 第3節 古墳時代……………18
 - 第4節 遺構外出土遺物……………22
 - 第5節 土層説明一覧……………23
- 第3章 成果と課題……………24
- 写真図版……………26
- 報告書抄録

挿図目次

- 第1図 上の山遺跡調査地点……………2
- 第2図 上の山遺跡周辺の遺跡……………3
- 第3図 大正時代の上の山遺跡周辺……………3
- 第4図 上の山遺跡遺構検出状況図……………4
- 第5図 上の山遺跡d地点遺構配置図……………4
- 第6図 縄文時代遺構実測図……………5
- 第7図 01D遺構実測図……………6
- 第8図 01D出土遺物実測図(1)……………7
- 第9図 01D出土遺物実測図(2)……………8
- 第10図 02D遺構・出土遺物実測図……………9
- 第11図 03D遺構実測図……………10
- 第12図 03D出土遺物実測図(1)……………11
- 第13図 03D遺物実測図(2)……………12
- 第14図 03D遺物実測図(3)……………13
- 第14図 05D遺構・遺物実測図……………14
- 第15図 06D遺構・遺物実測図……………15
- 第16図 10D遺物実測図(1)……………16
- 第17図 10D遺構実測図……………17
- 第18図 10D遺物実測図(2)……………18
- 第19図 11D遺構・出土遺物実測図……………19
- 第20図 11D出土遺物実測図……………20
- 第21図 遺構外出土遺物実測図……………22

写真図版目次

- 図版1 遺構1(調査区全景・01P・02P・03P)……………26
- 図版2 遺構2(01D・02D・03D)……………27
- 図版3 遺構3(03D・05D・06D・10D・11D)……………28
- 図版4 01D出土遺物……………29
- 図版5 02D・03D出土遺物……………30
- 図版6 03D・05D出土遺物……………31
- 図版7 06D・10D出土遺物……………32
- 図版8 10D・11D・遺構外出土遺物……………33

第1章 調査経過及び概要

第1節 調査に至る経緯

令和元年7月12日付けで、開発事業者から壹田町字上ノ山927-1他の宅地造成に係る「埋蔵文化財の取扱いについて（確認）」の依頼が提出された。確認地は、周知の遺跡である上の山遺跡の範囲内であることから、八千代市教育委員会（以下「市教委」という。）は、文化財保護法（以下「法」という。）第93条に基づく届出が必要であることと、「その取扱いについて協議したい」旨をそれぞれ回答し、合計3037.38㎡について取扱いに係る協議を行った。その結果、地権者及び開発事業者は工事を進めたいとのことであり、発掘調査を行うこととなった。同年8月2日付で開発事業者から土木工事の届が提出され、市教委は令和元年9月19日に確認調査を開始した。

確認調査 確認調査は、令和元年度市内遺跡発掘調査事業として国庫及び県費の補助を受けて行った。上の山遺跡d地点として対象面積3037.38㎡のうち248㎡を調査した。その結果、発掘調査により竪穴建物跡7棟及び土坑1基を検出した。

本調査 確認調査の結果、1275.38㎡について協議範囲として協議を重ねた。協議の最中、開発事業者は事業計画を撤回するとともに、中基昭氏から同地域で事業を行いたい旨相談があったことから、中基昭氏を事業者として協議した結果、令和2年2月12日付で八千代市長（以下「市」という。）に調査依頼書が提出され、市は同年2月18日付でこれを受託した。同年4月1日付で市と事業者間で本調査の委託契約を締結し、同月20日に市教委が本調査を開始した。

第2節 調査の概要

本調査は、遺構を検出した周囲1275.38㎡を対象として行った。表土については重機により掘削し、適宜写真撮影と図面作成、トータルステーションによって記録をとりながら完掘を目指した。

調査経過は、4月20日機材搬入、環境整備。4月21日から28日にかけて重機による表土掘削。27日より表土掘削が終了した箇所から確認面の清掃を行い、遺構確定の後5月1日より土坑等の遺構調査に移行した。トータルステーションによる遺物取り上げ及び平面図作成等を並行して行い、随時写真撮影等により記録を行った。個別の遺構調査終了後に全体写真撮影を行い、6月25日より重機による埋戻しを開始。並行して機材の撤収を行い、7月1日に埋戻し及び機材撤収を完了し、調査を終了した。

第3節 上の山遺跡の概要

遺跡の立地 上の山遺跡は、市域の南東部の壹田町地区に所在する。新川最上流部を東に臨む台地平坦面上で、新川から延びる谷津（中島支谷）の中央南岸、標高約24m～27mの台地上平坦部に位置する。

これまでの調査 八千代市遺跡調査会により昭和62（1987）年にa地点170㎡、平成6年にb地点1200㎡、c地点216㎡が調査された。a地点において弥生時代の竪穴建物跡2棟、b地点で弥生時代の竪穴建物跡2棟、近世以降の溝跡2条、c地点で弥生時代の竪穴建物跡1棟が検出されている。



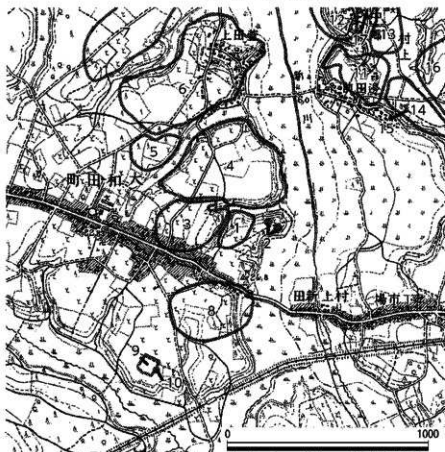
第1図 上の山遺跡調査地点

周辺の遺跡 同じ中島支谷の最奥部西側に位置する北裏畑遺跡では9地点が調査され、縄文時代の土坑などが検出されている。支谷を挟んだ北側には川崎山遺跡が所在し、24地点が調査され、弥生～古墳時代を中心に旧石器時代から奈良・平安時代までの遺構が確認されている。縄文時代は陥穴等の遺構が遺跡全体に散見され、弥生時代～奈良・平安時代の遺構は新川を臨む遺跡東側に集中して見つかっている。川崎山遺跡の北側、池の谷津を挟んだ台地上には池の台遺跡と白幡前遺跡が所在している。池の台遺跡は9地点が調査され、遺跡北側を中心に奈良・平安時代の堅穴建物跡が見つかっている。白幡前遺跡は現在ゆりのき台と呼ばれる地域で行われた萱田地区特定土地区画整理事業において調査された遺跡の一つで、94,026㎡が栃千葉県文化財センターにより調査され、旧石器時代～平安時代の遺構・遺物が多数検出されている。特に奈良・平安時代では多数の墨書土器や瓦塔・瓦堂などの特殊な遺物や、寺院と考えられる四面庇の掘立柱建物跡等を検出している。上の山遺跡と同じ台地上の南には古墳時代の集落跡である小板橋遺跡が所在し、高津川に面する台地南端には古墳時代の堅穴建物跡が検出された堰場台遺跡及び雲母片岩製の箱式石棺から人骨11体分と直刀5振り、多数の鉄鏃、刀子、耳環、ガラス玉等が出土した堰場台古墳が所在する。また、上の山遺跡の東、新川を臨む台地先端には上の山古墳が所在している。



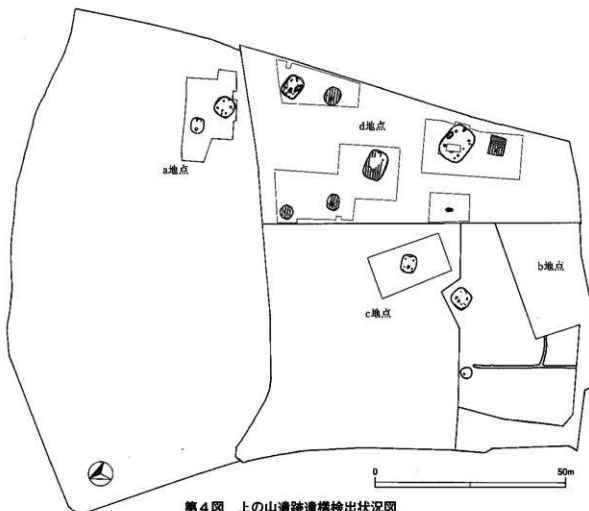
- 1 上の山遺跡
- 2 上の山古墳
- 3 北表畑遺跡
- 4 川崎山遺跡
- 5 池の台遺跡
- 6 白幡前遺跡
- 7 井戸向遺跡
- 8 小坂橋遺跡
- 9 堰場台遺跡
- 10 堰場台古墳
- 11 浅間内遺跡
- 12 正覚院館跡
- 13 殿内遺跡
- 14 白筋遺跡
- 15 根上神社古墳
- 16 村上込の内遺跡
- 17 持田遺跡

第2図 上の山遺跡周辺の遺跡

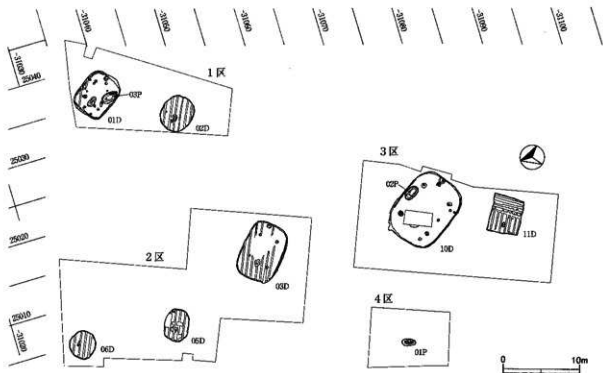


- 1 上の山遺跡
- 2 上の山古墳
- 3 北表畑遺跡
- 4 川崎山遺跡
- 5 池の台遺跡
- 6 白幡前遺跡
- 7 井戸向遺跡
- 8 小坂橋遺跡
- 9 堰場台遺跡
- 10 堰場台古墳
- 11 浅間内遺跡
- 12 正覚院館跡
- 13 殿内遺跡
- 14 白筋遺跡
- 15 根上神社古墳
- 16 村上込の内遺跡
- 17 持田遺跡

第3図 大正時代の上の山遺跡周辺（国土地理院発行5万分の1地形図を編集）



第4図 上の山遺跡遺構検出状況図



第5図 上の山遺跡 d地点遺構配置図

第2章 検出された遺構と遺物

第1節 縄文時代

01P

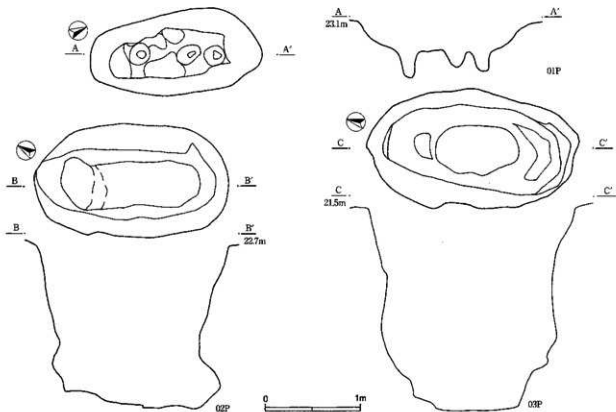
位置 4区中央 確認面 ソフトローム層 規模・平面形 1.8m×0.9m×0.7m 楕円形 壁 緩やかに立ち上がる。床面 ハードローム層上面を地床とし、3つの小ビットを有する。遺物出土状態 出土遺物なし。所見 覆土や遺構の形態などから縄文時代の陥穴と考えられる。

02P

位置 3区北寄り 確認面 10D床面 規模・平面形 2.05m×1.2m×1.7m 楕円形。壁 ほぼ垂直に立ち上がるが、下部は長軸方向が袋状に広がりオーバーハングする。床面 ハードローム層を約1.7m掘り込み地床とする。遺物出土状態 遺構内からの弥生土器片が出土しているが、10Dからの流れ込みと考えられる。所見 遺構の形態などから縄文時代の陥穴と考えられる。

03P

位置 1区北寄り 確認面 01D床面 規模・平面形 2.25m×1.25m×2.2m楕円形。壁 ほぼ垂直に立ち上がるが、下部は長軸方向が袋状に広がりオーバーハングする。床面 ハードローム層を約2m掘り込み地床とする。遺物出土状態 出土遺物なし。所見 遺構の形態などから縄文時代の陥穴と考えられる。

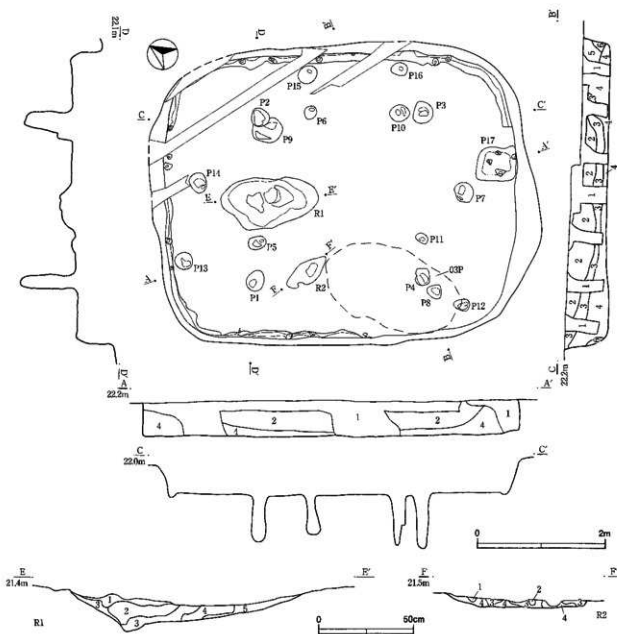


第6図 縄文時代遺構実測図

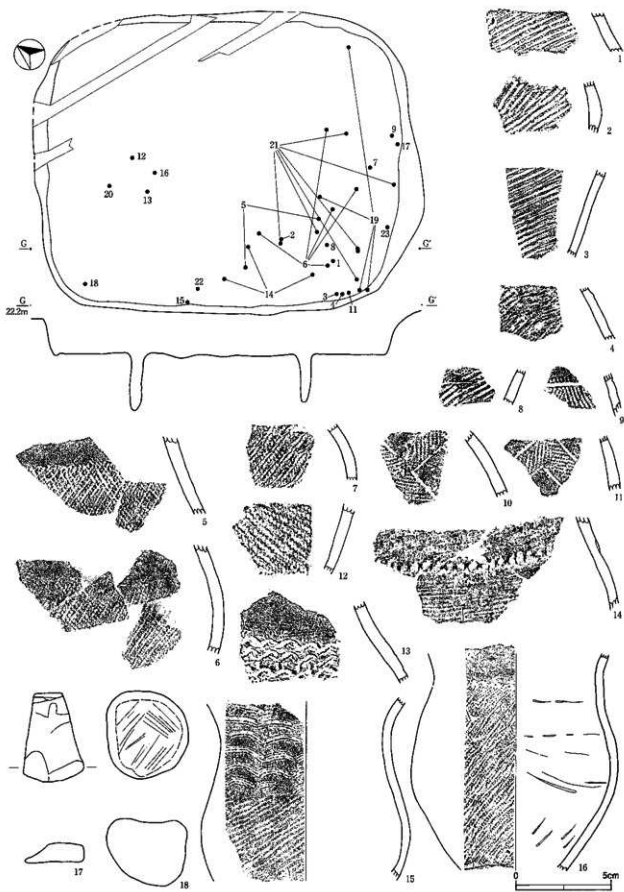
第2節 弥生時代

01D

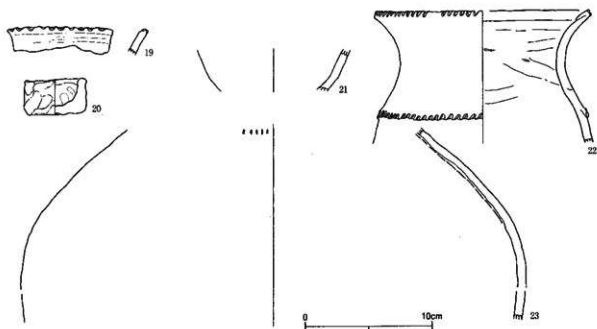
位置 1区北寄り 確認面 ソフトローム層上面 主軸方向 N-33°-Wで西に振れている。規模・平面形 6m×4.8m×0.7m 隅丸方形 壁 緩やかに立ち上がる 床面 ハードローム層を掘り込み地床とする。周溝 南側の一部を除いた壁沿いに幅15cm程の小ピットを伴う溝が巡っている。炉 中央北西よりと南西壁よりに2基作られている。炉1は床面から20cm程掘り込む。炉2は床面から5cm程掘り込む。ピット P1～P4が支柱穴と考えられる。P5～P8は建替え等により埋められた古い支柱穴と考えられる。覆土 6層に分層。遺構の上部から覆土中にかけて耕作によるカクランが見られる。遺物出土状態 覆土中及び床面から弥生土器が見つかっている。所見 出土遺物及び遺構の形態などから、弥生時代後期の堅穴建物跡と考えられる。



第7図 01D遺構実測図



第8图 01D遺構・出土遺物実測図(1)



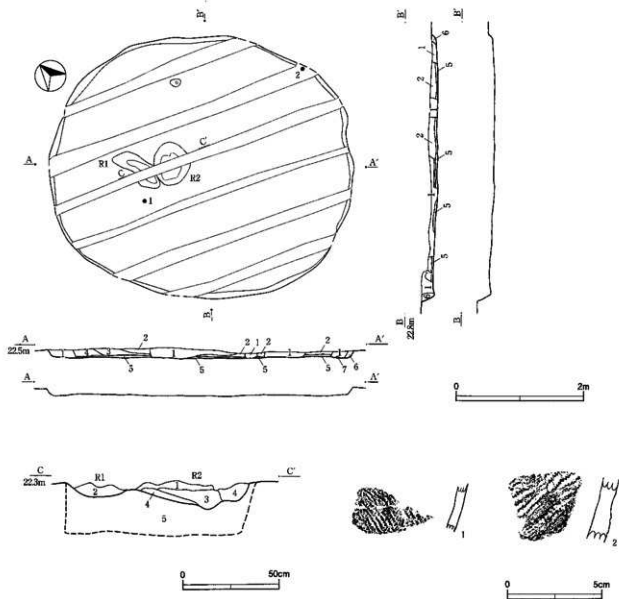
第9図 01D出土遺物実測図(2)

01 D 遺物観察表

器種等	部位	計測値 (cm)			色調	胎土	調査・文様等
		高さ	口径	底径			
1 弥生土器類	胴部	—	—	—	淡褐色	長石、石英	外面附加糸縄文。内面ナデ
2 弥生土器類	胴部	—	—	—	黒～黒褐色	長石、石英	外面：附加糸縄文。内面ヘラナデ
3 弥生土器類	胴部	—	—	—	暗淡褐色	長石、石英	外面附加糸縄文。内面ナデ
4 弥生土器類	胴部	—	—	—	黒褐～褐色	長石、石英 小礫含む	外面縄文。内面ナデ調整
5 弥生土器類	胴部	—	—	—	外面：黒褐色 内面：淡褐色	長石、石英	外面横目状粗糸文か？。内面ヘラナデ
6 弥生土器類	胴部	—	—	—	外面：黒色 内面：淡褐色	長石、石英	外面附加糸縄文か。上部はヘラナデ。内面ヘラナデ
7 弥生土器類	胴部	—	—	—	淡褐色	長石、石英 黒色鉱物	外面附加糸縄文か？。内面ヘラナデ
8 弥生土器類	胴部	—	—	—	暗淡褐色	長石、石英	外面附加糸縄文。内面ナデ
9 弥生土器類	胴部	—	—	—	淡黄褐色	長石、石英	外面：充墳縄文。内面：ナデ調整
10 弥生土器類	胴部	—	—	—	外面：黒色 内面：淡褐色	長石、石英 黒色鉱物	外面：充墳縄文。内面：表面の剥落により不明。4と同一個体か？
11 弥生土器類	胴部	—	—	—	外面：黒色 内面：淡褐色	長石、石英 黒色鉱物	外面：充墳縄文。内面：表面の剥落により不明
12 弥生土器類	胴部	—	—	—	黒褐色	長石、石英	外面縄文。内面ナデ
13 弥生土器類	胴部	—	—	—	黒褐色	白色鉱物、小礫含む	外面3条のS字状結節文。内面ヘラナデ
14 弥生土器類	胴部	—	—	—	暗黄褐色	長石、石英 小礫多い	外面上部ヘラナデ。中央へら状工具によるキザミ下部ハケム。内面ヘラナデ
15 弥生土器類	頸部～胴部	—	—	—	暗黄褐色	長石、石英	外面下部粗糸文。頸部ナデ調整後波状文
16 弥生土器類	頸部～胴部	—	—	—	暗淡褐色	長石、石英	外面附加糸縄文。頸部ナデ調整。内面ヘラナデ
17 砥石		4.7 (最大長)	3.2 (最大幅)	1.0 (最大厚)	緑灰色	砂岩系	一部欠損。研磨痕あり。
18 砥石		4.7 (最大長)	4.2 (最大幅)	3.4 (最大厚)	黄白色		研磨痕あり。砥石として利用。
19 弥生土器類	口縁部	—	—	—	黒褐色	長石、石英	内外面ともヨコ方向のヘラナデ。口唇部に棒状工具によるキザミ目
20 手捏ね土器類	ほぼ完形	2.7	4.0	4.7	黒褐色～淡黄褐色	長石、石英 小礫含む	口縁部一部欠損
21 弥生土器類	頸部～胴部	—	—	—	外面：暗褐色 内面：黒褐色	長石、石英	内外面ともヘラナデ
22 弥生土器類	頸部～胴部	—	(17.0)	—	外面：暗淡褐色 内面：暗黄褐色	長石、石英	内外面とも横方向のヘラナデ。口唇部は内面側に輪郭み痕。口唇部にキザミ目。外面頸部と胴部の境に輪郭み痕の残し。キザミ目をつける
23 弥生土器類	胴部	—	—	—	黒色～淡黄褐色	長石、石英 黒色、赤色鉱物	外面ミガキ調整。上部に縄文を施した面跡あり。内面ヘラナデ。内外面とも脱熱している

02D

位置 1区南寄り 確認面 ソフトローム層上面 主軸方向 N-44°-Wで西に振れている。規模・平面形 4.8m×4.2m×0.1m 小判型 壁 壁面の残存がわずかであるが、ほぼ垂直に立ち上がるかと思われる。床面 ハードローム面に土を貼り床としている。炉 中央北西よりに2基作られる。ピット P1は主柱穴と考えられるが、他の柱穴等は検出されなかった。覆土 7層に分類され、5層が貼床である。遺物出土状態 床面上より弥生土器が出土している。所見 出土遺物及び遺構の形態などから、弥生時代後期の竪穴建物跡と考えられる。



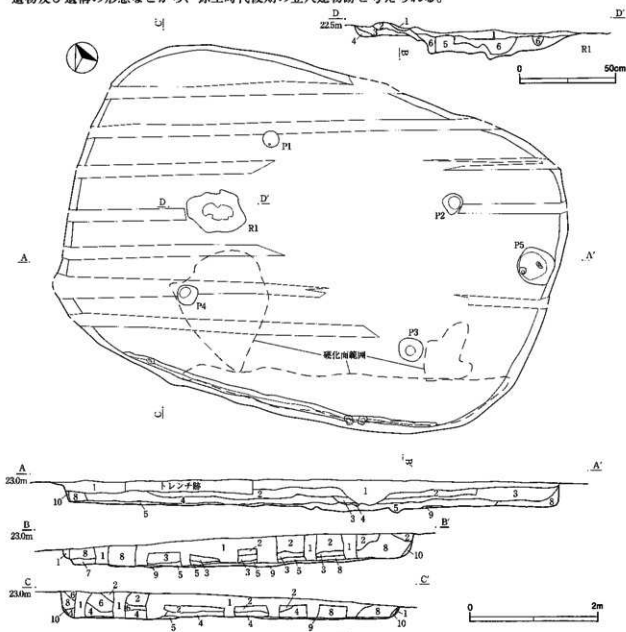
第10図 02D構・出土遺物実測図

02D遺物観察表

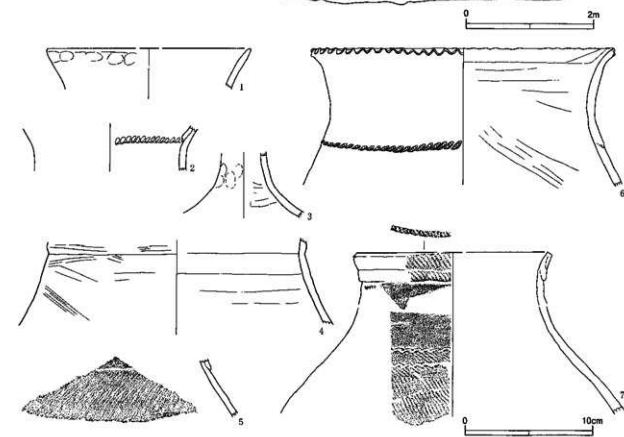
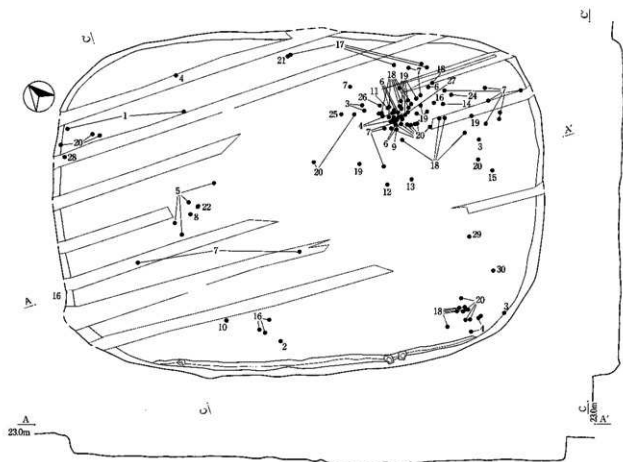
	器種等	部位	計測値 (cm)			色 調	胎 土	調整・文様等
			器高	口径	底径			
1	弥生土器	胴部	—	—	—	外面：暗淡褐色 内面：黒褐色	長石、石英	内面ヘラナデ。外面縄文
2	弥生土器	胴部	—	—	—	外面：黒褐色 内面：暗淡褐色	長石、石英 雲母	内面ヘラナデ。外面縄文

03D

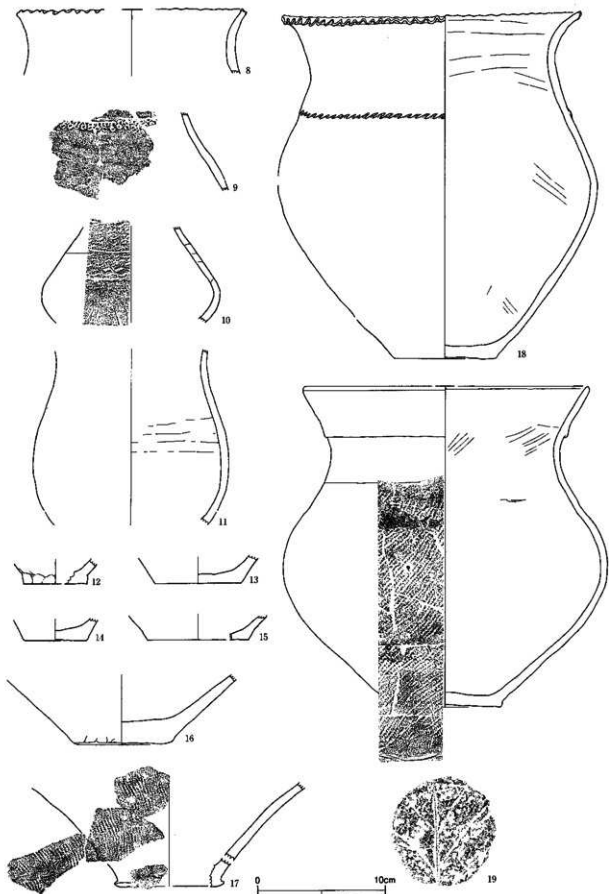
位置 2区南寄り 確認面 ソフトローム層上面 主軸方向 N-49°-Wで西に振れている。規模・平面形 7.8m×5.5m×0.4m 隅丸方形 壁 緩やかに立ち上がる 床面 ハードローム層上面を地床とする。4層上面相当の高さで、一部硬化面を検出している。目的は不明であるが埋没途中で利用されていた可能性がある。周溝 南西壁沿いに幅10cmの溝が検出できた。小ピット3基を伴う。炉 中央北よりに作られる。床面から20cm程掘り込む。ピット P1~P4が主柱穴と考えられる。南東壁沿いに小ピットを伴う土坑が検出された。覆土 10層に分層。また、堆積の状況から埋没過程で一部を掘り込み平坦面が作られ、硬化面を検出している箇所もあることから、03Dの中に入子状に堅穴建物が営まれていた可能性もある。しかし、柱穴や炉などの施設は検出できなかったことから、1棟の建物跡とした。遺物出土状態 覆土及び床面上より弥生時代土器が出土している。また、寛20と重なって炭化米が出土しているが非常に脆く、周辺の土ごと取り上げを行ったが崩れてしまった。所見 出土遺物及び遺構の形態などから、弥生時代後期の堅穴建物跡と考えられる。



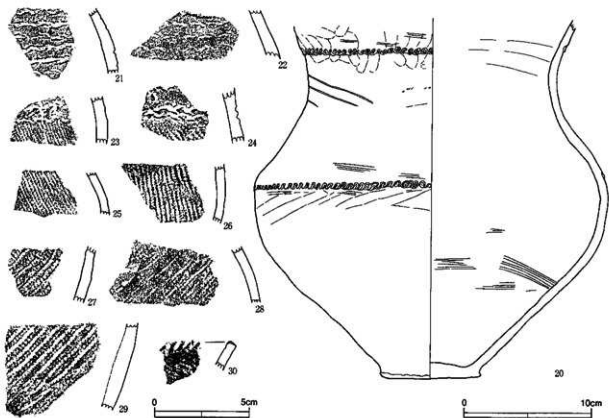
第11図 03D遺構実測図



第12图 03D遺構・出土遺物実測図(1)



第13图 03D出土遺物実測図(2)



第14図 O3D出土遺物実測図(3)

03 D 遺物観察表

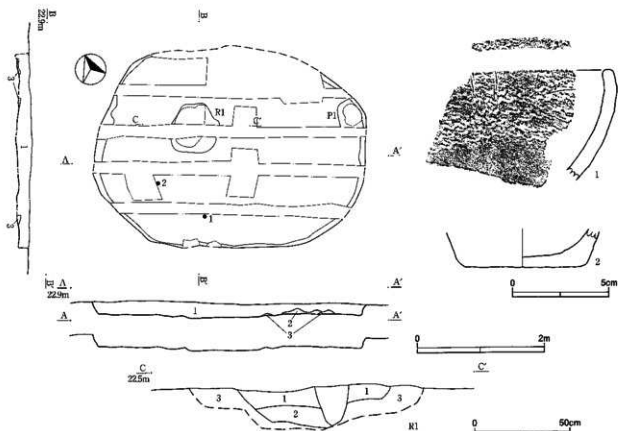
器種等	部位	計測値 (cm)			色 調	胎 土	調整・文様等
		器高	口径	底径			
1 弥生土器 甕	口縁部	—	(16.0)	—	黒褐色	長石、石英	内外面ともヘラナデ。口唇部付近はヨコナデ。
2 弥生土器 甕	胴部	—	—	—	暗淡褐色	長石、石英	内外面ともヘラナデ。内面輪積み痕部分に、棒状工具による割突。
3 弥生土器 甕	頸部～胴部	—	—	—	淡褐色	長石、雲母	内外面ともヘラナデ。
4 弥生土器 甕	胴部	—	—	—	外：暗褐色 内：黒色	長石、石英	内外面ともヘラナデ。外面上部に輪積み痕あり。
5 弥生土器 甕	胴部	—	—	—	淡黄褐色	長石、石英	外面上部に輪積み痕。他附加条縄文。 内面ヘラナデ。
6 弥生土器 甕	口縁～胴部	—	24.0	—	黒褐色	長石、石英	内外面ともヘラナデ。外面に輪積み痕を残し、縄文を施文。口縁部にキザミ。
7 弥生土器 甕	口縁～胴部	—	(15.0)	—	黒褐色～暗褐色	長石、石英	外面口縁部に輪積み痕を残し、縄文を施文。頸部ヘラナデで、頸部と胴部の境にS字状結節文を2条施文し、縄文を施文する。内面はヘラナデ。
8 弥生土器 甕	口縁～頸部	—	(18.0)	—	淡黄褐色	石英、長石	外面ヘラナデ。内面ミガキ調整。口唇部にキザミ。
9 弥生土器 甕	胴部	—	—	—	暗褐色	長石、石英	内外面ともヘラナデ。外面上部に棒状工具の刺突突により連続する円を施している。
10 弥生土器 甕	胴部	—	—	—	暗黄褐色	長石、石英	外面胴部は、板方向の沈線で区画した中にS字状結節文を施文する。他内外面ともヘラナデ。
11 弥生土器 甕	頸部～胴部	—	—	—	黒色～褐色	長石、石英	内外面ともヘラナデ。
12 弥生土器 甕	底部	—	—	5.0	暗淡褐色	長石、石英	内外面ともヘラナデ。
13 弥生土器 甕	底部	—	—	6.6	外：暗淡褐色 内：暗褐色	長石、せ	内外面ともヘラナデ。
14 弥生土器 甕	底部	—	—	4.8	外：暗褐色 内：黒褐色	長石、石英	内外面ともヘラナデ。
15 弥生土器 甕	底部	—	—	(8.0)	外：黄白色 内：淡褐色	長石、石英	内外面ともヘラナデ。
16 弥生土器 甕	底部	—	—	8.0	外周：黒褐色 内周：褐色	長石、石英	内外面ともヘラナデ。
17 弥生土器 甕	胴部～底部	—	—	(8.0)	灰白色	長石、石英	外面縄文。内面ヘラナデ。
18 弥生土器 甕	口縁～頸部	27.4	21.6	8.0	外：暗褐色 内：黒褐色	長石、石英	内外面ともヘラナデ。頸部と胴部の境に輪積み痕を残し、縄文を施文する。口唇部キザミ。

03 D遺物観察表

19	弥生土器 壺	口縁～底部	25.4	21.6	8.8	黒～黄褐色	長石、石英 雲母	内面及び外面の口縁～頸部はヘラナデ。胴部は附加条 縄文を施す。底部に木炭痕。
20	弥生土器 壺	頸部～底部	—	—	7.8	外：黒褐色 内：黒～淡褐色	長石、石英	内外面ともヘラナデ。外面頸部と胴部の境に輪組み面 施し、棒状工具で割突。口縁部と頸部にも同様の 調整を行う。 外面S字状筋部文。
21	弥生土器 壺	胴部	—	—	—	外：黄褐色 内：淡黄褐色	長石、石英	外面S字状筋部文。
22	弥生土器 壺	胴部	—	—	—	外：黒～灰褐色 内：淡黄褐色	長石、石英	外面S字状筋部文。内面ヘラナデ。
23	弥生土器 壺	胴部	—	—	—	淡黄褐色	長石、石英	外面S字状筋部文と縄文。内面ナデ。
24	弥生土器 壺	胴部	—	—	—	黒褐色	長石、石英	外面S字状筋部文と縄文。内面ヘラナデ。
25	弥生土器 壺	胴部	—	—	—	外：黒淡褐色 内：淡褐色	長石、石英	外面附加条縄文。内面ヘラナデ。
26	弥生土器 壺	胴部	—	—	—	黒褐色	長石	外面縄文。内面ヘラナデ。
27	弥生土器 壺	胴部	—	—	—	黒褐色	長石、石英	外面附加条縄文。内面ヘラナデ
28	弥生土器 壺	胴部	—	—	—	外：黒褐色 内：淡褐色	長石、石英	外面附加条縄文。内面ヘラナデ。
29	弥生土器 壺	胴部	—	—	—	黄褐色	長石、石英 雲母	外面附加条縄文。内面は板状により表面が剥離してい る。
30	弥生土器 壺	口縁部	—	—	—	淡褐色	長石、石英	口唇部に縄文

05D

位置 2区中央 確認面 ソフトローム層上面 主軸方向 N-64°-Wで西に振れている。規模・平面形 4.3m×3.2m×0.2m小判型 壁 ほぼ垂直に立ち上がる 床面 ソフトロームを20cm程掘り込み地床としている。炉 中央北西よりに作られる。床面から10cm程掘り込む。ピット P1、P2ともに支柱穴と考えられるが、他の柱穴等は検出されなかった。覆土 3層に分類される。耕作によるカクランが床面下まで及んでいる。遺物出土状態 覆土及び床面上から弥生土器が出土している。所見 出土遺物及び遺構の形態などから、弥生時代後期の竪穴建物跡と考えられる。



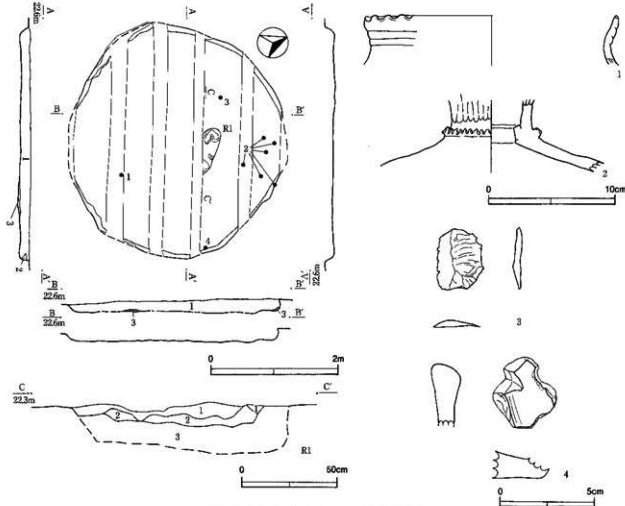
第15図 05D遺構・出土遺物実測図

05 D 遺物観察表

	器種等	部位	計測値 (cm)			色調	胎土	調整・文様等
			器高	口径	底径			
1	弥生土器 鉢	口縁～胴部上	—	—	—	暗黄褐色	長石、石英 雲母	内面ヘラナダ。外面口唇部から体部上部にかけてS字状粒文
2	弥生土器 壺	底部	—	—	6.2	外面：暗黄褐色 内面：黒色	長石、石英	内面ヘラナダ。外面ヘラナダ。

06D

位置 2区北寄り 確認面 ソフトローム層上面 主軸方向 N-45°-Wで西に振れている。規模・平面形 3.6m×3.5m×0.2m 不整形な円形 壁 ほぼ垂直に立ち上がる 床面 ソフトロームを掘り込み地床としている。炉 中央やや北よりに作られる。床面を5cm程掘り込む。ピット 柱穴等は検出されなかった。覆土 3層に分類される。遺物出土状態 覆土中及び床面から弥生土器が出土。所見 出土遺物及び遺構の形態などから、弥生時代後期の堅穴建物跡と考えられる。



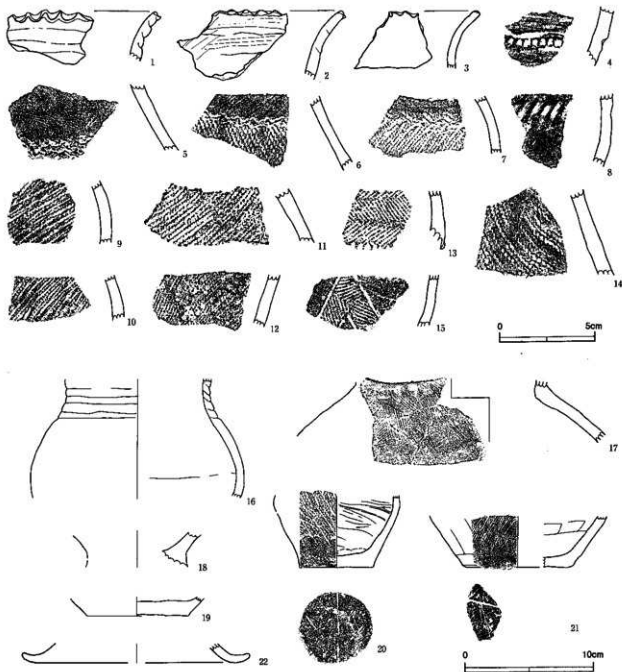
第16図 06D遺構・出土遺物実測図

06 D 遺物観察表

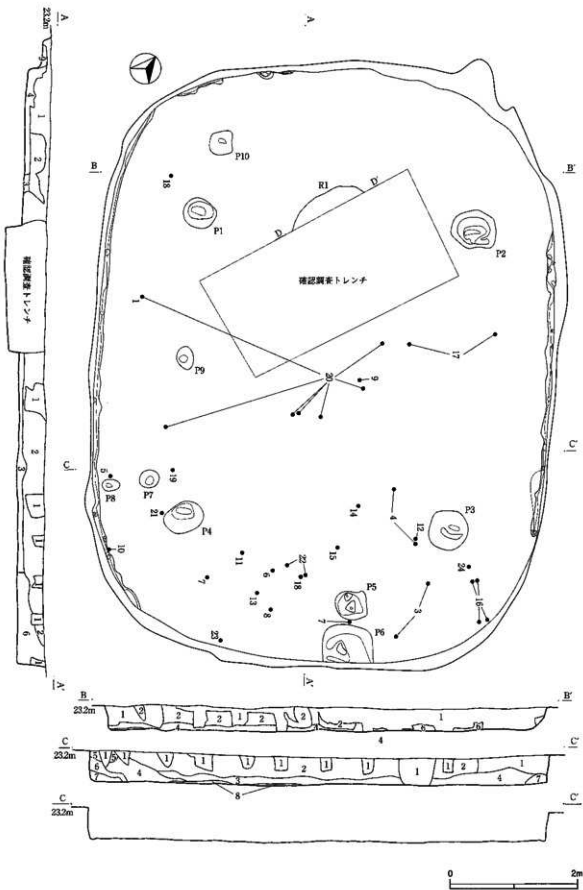
	器種等	部位	計測値 (cm)			色調	胎土	調整・文様等
			器高	口径	底径			
1	弥生土器 壺	口縁～胴部	—	(20.0)	—	黒色～黒褐色	長石、石英 雲母	内面ヘラナダ。外面口唇部にキザミをつけ、胴部まで輪状みねを施す。
2	弥生土器 壺	胴部～肩部	—	—	—	淡黄褐色	長石、石英	内面ヘラナダ。外面胴部ミガキ。頸部と胴部の境に縞帯を貼り付け、キザミをつける。
3	石器 削片		3.2 (最大長)	2.5 (最大幅)	0.4 (最大厚)	暗黄緑色	球質頁岩か?	
4	不明石製品		(3.7) (最大長)	(3.4) (最大幅)	(1.5) (最大厚)	灰色	砂岩か?	砂岩の様な石材。把手状の突起有り。破損しており、全体の形状は不明。

10D

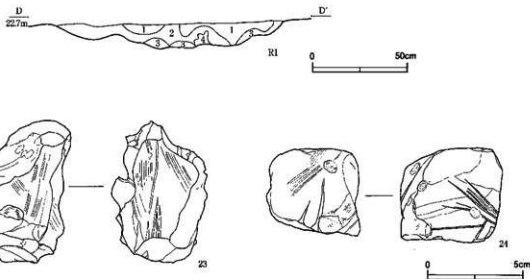
位置 3区北寄り 確認面 ソフトローム層上面 主軸方向 N-37°-Wで西に振れている。規模・平面形 9.7m×7.4m×0.5m隅丸方形 壁 はほぼ垂直に立ち上がる 床面 ハードロームを掘り込み地床としている。周溝 北東及び南西壁沿いに幅10cm程の小ピットを伴う溝が検出された。炉 中央やや北西よりに作られる。床面から13cm程掘り込む。ピット P1~P4が主柱穴。南東壁沿い及びその北西側に小ピットを伴う土坑2基が検出されている。覆土 9層に分類され、覆土の下層では焼土粒と炭化物を非常に多く含むことから、焼失建物の可能性もあるが、炭化した建物の構造物等は見つからなかった。遺物出土状態 覆土中及び床面から弥生土器が出土。所見 出土遺物及び遺構の形態などから、弥生時代後期の堅穴建物跡と考えられる。



第17図 10D出土遺物実測図(1)



第18図 10D遺構実測図



第19図 10D遺構・出土遺物実測図(2)

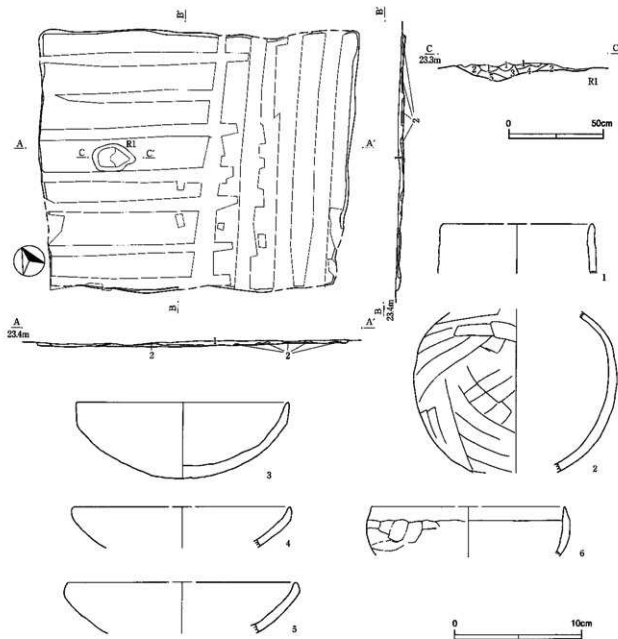
10D 遺物観察表

器種等	部位	計測値 (cm)			色 調	拾 上	調査・文様等
		器高	口径	底径			
1 弥生土器 類	口縁部	—	—	—	淡褐色	長石、石英	内外面ともヘラナデ。口唇部にキザミ。 外面に輪痕み痕を残す。
2 弥生土器 類	口縁部	—	—	—	暗淡褐色	長石、石英	内外面ともヘラナデ。口唇部にキザミ。 外面に輪痕み痕あり。
3 弥生土器 類	口縁部	—	—	—	外：黒色 内：暗淡褐色	長石、石英	内外面ともヘラナデ。口唇部にキザミ。
4 弥生土器 類	胴部	—	—	—	淡褐色	長石、石英	内外面ともヘラナデ。外面に輪痕み痕を残し、棒状 工具で彫突している。
5 弥生土器 類	胴部	—	—	—	外：黒褐色 内：淡黄褐色	長石、石英	外口下部にS字状筋節文を施文。上部及び内面はヘ ラナデ。
6 弥生土器 類	胴部	—	—	—	暗淡褐色	長石、石英 雲母	外面S字状筋節文を施文し、その下は附加条縄文を 施文。内面ヘラナデ。13と同一個体か?
7 弥生土器 類	胴部	—	—	—	外：黒褐色 内：暗淡褐色	長石、石英	外周2条のS字状筋節文を施文し、その下は附加条 縄文を施文。上部はナデ調整。内面ヘラナデ。
8 弥生土器 類	胴部	—	—	—	外：黒褐色 内：淡褐色	長石	外面縄文気体を押正か? 内面ナデ調整。
9 弥生土器 類	胴部	—	—	—	淡褐色	長石、石英	外面附加条縄文。内面ヘラナデ。
10 弥生土器 類	胴部	—	—	—	外：黒褐色 内：暗淡褐色	長石、石英	外面附加条縄文。内面ヘラナデ。
11 弥生土器 類	胴部	—	—	—	外：黒褐色 内：淡褐色	長石、石英	外面縄文を施文。内面ミガキ調整。
12 弥生土器 類	胴部	—	—	—	暗淡褐色	長石、石英	焼熱によりひょうめんの一部が剥離。外面附加条縄 文か?。内面ナデ調整。
13 弥生土器 類	胴部	—	—	—	暗黄褐色	長石、石英	外面羽状縄文。キザミ部分は縄文気体の押正と考え られる。内面ナデ調整。
14 弥生土器 類	胴部	—	—	—	暗淡褐色	長石、石英 雲母	外面附加条縄文を施文後にナデ。内面ヘラナデ。 20と同一個体か?
15 弥生土器 類	胴部	—	—	—	外：黄褐色 内：淡黄褐色	長石、石英	外面充填縄文。内面ヘラナデ。
16 弥生土器 類	頸部～胴部	—	—	—	外：黒褐色 内：淡褐色	長石、石英	内外面ともヘラナデ。頸部外面に輪痕み痕。
17 弥生土器 類	頸部～胴部	—	—	—	外：暗淡褐色 内：暗褐色	長石、石英	外面ハケ目真鍮痕ナデ。内面ヘラナデ。
18 弥生土器 台付 類	底部	—	—	—	外：暗褐色 内：黒褐色	長石、石英	内外面ともヘラナデ。
19 弥生土器 類	底部	—	—	(8.0)	外：暗淡褐色 内：淡黄褐色	長石、石英	
20 弥生土器 類	胴部～底部	—	—	5.8	暗淡褐色	長石、石英 雲母	外面胴部附加条縄文。底部附近はヘラナデ。 底部木炭痕あり。内面ヘラナデ。
21 弥生土器 類	胴部～底部	—	—	(8.0)	外：暗淡褐色 内：淡黄褐色	長石、石英 雲母	外面胴部附加条縄文か?。底部附近はヘラナデ。 底部木炭痕あり。内面ヘラナデ。
22 土師器 高杯	胴部	—	—	(17.8)	淡褐色～黒褐色	長石、石英 雲母	内外面ともヨコナデ。
23 砥石		5.2 (最大長)	4.6 (最大幅)	5.0 (最大厚)	灰緑～灰白色	軽石	研磨痕あり。
24 砥石		7.2 (最大長)	5.9 (最大幅)	5.0 (最大厚)	灰緑～灰白色	軽石	研磨痕あり。

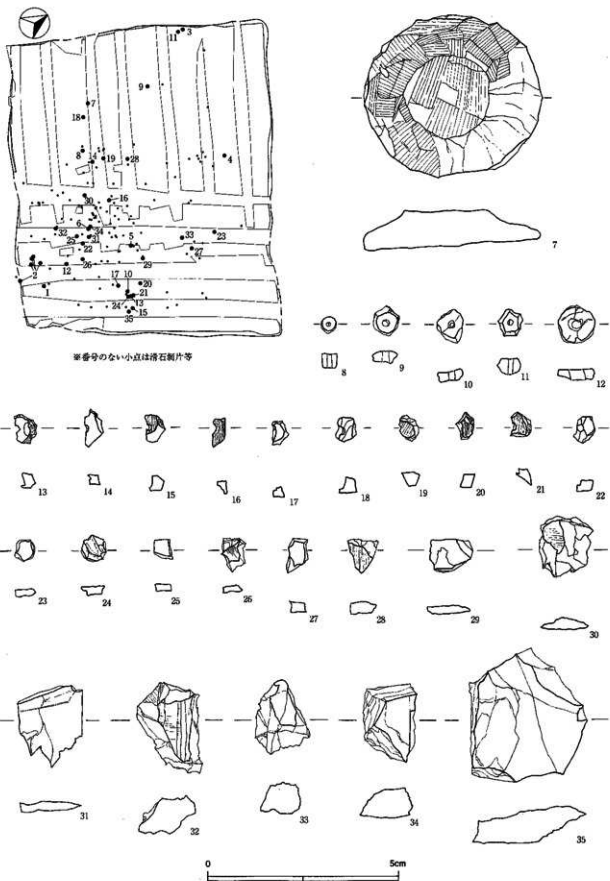
第3節 古墳時代

11D

位置 3区南寄り 確認面 ソフトローム層上面 主軸方向 N-60°-Wで西に振れている。規模・平面形 5.0m×4.2m×0.08m以上 長方形 床面 ソフトローム層を8cm程掘り込み地床とする。炉中央北西寄りに作られる。床面から10cm程掘り込む。ピット 柱穴等は確認できなかった。覆土 遺構の床面付近まで削平され、床面も耕作により筋状のカクランを受けているため、覆土はわずかに残るのみであった。遺物出土状態 古墳時代の土師器及び石製紡錘車の未製品、白玉の未製品及び石製品の製作途中で出たと考えられる剥片等が出土している。所見 出土遺物及び遺構の形態などから、古墳時代中期の竪穴建物跡で、石製模造品の工房跡と考えられる。



第20図 11D遺構・出土遺物実測図(1)



※番号のない小点は滑石製片等

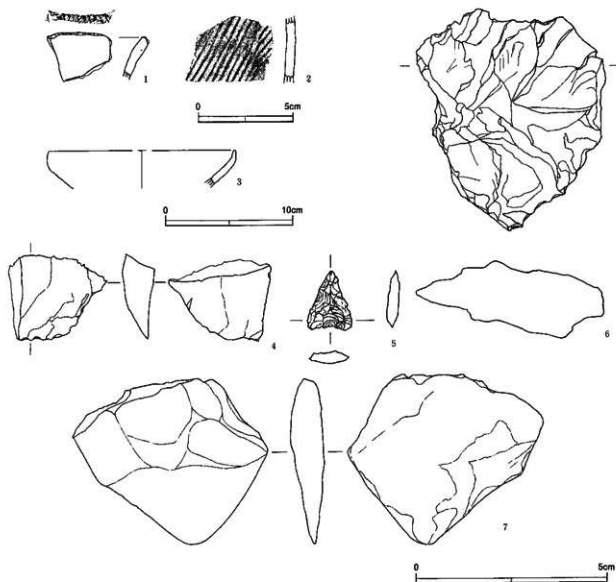
第21図 11D出土遺物実測図(2)

11D 遺物観察表

	器種等	部位	寸法値 (cm)			色 調	粘 土	調整・文様等
			器高	口径	底径			
1	土師器 鉢	口縁～胴部	—	(11.6)	—	橙褐色	灰石、石英	外面胴部ヘラ削り。口唇部コナテ。 内面ヘラナテ。外面ヘラ削り。底部に木炭痕。
2	土師器 壺	胴部	—	—	—	淡褐色	灰石、石英	外面ヘラ削り。内面ヘラナテ。
3	土師器 杯	口縁～底部	(6.0)	(16.6)	—	暗褐色	灰石、石英	外面底部～胴部下縁はヘラ削り。胴部上部～口縁及び内面はヘラナテ
4	土師器 杯	口縁～胴部	—	(17.0)	—	黄褐色	灰石、石英	内面ハナク貝状のナテ。外面はミガキ調整か？ 口縁部コナテ
5	土師器 杯	口縁～胴部	—	(18.0)	—	黄褐色	灰石、石英	口縁部コナテ。内外面ともヘラナテ。
6	土師器 杯	口縁～胴部	—	(15.2)	—	淡黄褐色	灰石、石英	口縁部コナテ。内外面ともヘラナテ。
7	粘板厚木製品		—	4.7 (最大幅)	0.9 (最大厚)	青緑色	滑石	表面を削り削り成形した後、丁寧に削り形を整えている途中のもの。未穿孔
8	石製模造品 白玉		—	0.4 (最大幅)	0.4 (最大厚)	青緑色	滑石	一部欠損。
9	石製模造品 白玉		—	0.8 (最大幅)	0.3 (最大厚)	青緑色	滑石	側面未研磨。片面は穿孔時に一部剥離。
10	石製模造品 白玉		—	0.9 (最大幅)	0.3 (最大厚)	青緑色	滑石	表面未研磨。片面は穿孔時に一部剥離あり。
11	石製模造品 白玉		—	0.7 (最大幅)	0.4 (最大厚)	青緑色	滑石	表面未研磨。側面削り
12	石製模造品 白玉未製品		—	1.0 (最大幅)	0.3 (最大厚)	白色	滑石	表面未研磨。側面研磨。穿孔時に表面剥離。
13	石製模造品 白玉未製品		—	0.8 (最大幅)	0.4 (最大厚)	青緑色	滑石	上面未研磨。下面、側面研磨。穿孔途中での破損品。
14	石製模造品 白玉未製品		—	1.0 (最大幅)	0.3 (最大厚)	青緑色	滑石	穿孔途中での破損品。
15	石製模造品 白玉未製品		—	0.7 (最大幅)	0.4 (最大厚)	青緑色	滑石	下面と側面の一部研磨。穿孔途中での破損品。
16	石製模造品 白玉未製品		—	0.7 (最大幅)	0.3 (最大厚)	青緑色	滑石	上面と側面に研磨。穿孔途中での破損品。
17	石製模造品 白玉未製品		—	0.6 (最大幅)	0.3 (最大厚)	青緑色	滑石	穿孔途中での破損品。
18	石製模造品 白玉未製品		—	0.7 (最大幅)	0.4 (最大厚)	青緑色	滑石	穿孔途中での破損品。
19	石製模造品 白玉未製品		—	0.7 (最大幅)	0.3 (最大厚)	青緑色	滑石	上下面研磨。穿孔途中での破損品。
20	石製模造品 白玉未製品		—	0.7 (最大幅)	0.3 (最大厚)	青緑色	滑石	上下面研磨。側面一部研磨。穿孔途中での破損品。
21	石製模造品 白玉未製品		—	0.7 (最大幅)	0.4 (最大厚)	青緑色	滑石	穿孔途中での破損品。
22	石製模造品 白玉未製品		—	0.7 (最大幅)	0.3 (最大厚)	青緑色	滑石	穿孔途中での破損品。
23	石製模造品 白玉未製品		—	0.8 (最大幅)	0.2 (最大厚)	濃緑色	滑石	側面の一部研磨
24	石製模造品 白玉未製品		—	0.7 (最大幅)	0.2 (最大厚)	青緑色	滑石	側面の一部研磨。
25	石製模造品 白玉未製品		—	0.5 (最大幅)	0.2 (最大厚)	青緑色	滑石	本研磨。
26	石製模造品 白玉未製品		—	0.8 (最大幅)	0.2 (最大厚)	青緑色	滑石	上面研磨。
27	石製模造品 白玉未製品		—	0.9 (最大幅)	0.2 (最大厚)	青緑色	滑石	上面研磨。
28	石製模造品 白玉未製品		—	0.9 (最大幅)	0.3 (最大厚)	青緑色	滑石	上下面研磨。
29	銅片		1.1 (最大長)	0.9 (最大幅)	0.2 (最大厚)	青緑色	滑石	
30	銅片		1.6 (最大長)	1.4 (最大幅)	0.3 (最大厚)	青緑色	滑石	上面の一部研磨。
31	銅片		2.0 (最大長)	1.7 (最大幅)	0.3 (最大厚)	青緑色	滑石	表面に刃物状の工具痕あり。
32	原石		2.2 (最大長)	1.6 (最大幅)	0.9 (最大厚)	青緑色	滑石	表面に削り痕あり。
33	原石		1.8 (最大長)	1.4 (最大幅)	0.8 (最大厚)	青緑色	滑石	表面に削り痕あり。
34	原石		2.0 (最大長)	1.4 (最大幅)	0.8 (最大厚)	青緑色	滑石	表面に刃物状の工具痕あり。
35	原石		3.4 (最大長)	3.1 (最大幅)	0.9 (最大厚)	青緑色	滑石	

第4節 遺構外出土遺物

遺構を検出する過程において、表土中及び遺構確認面上からも遺物の出土が見られたことから、下記に報告する。



第22図 遺構外出土遺物実測図

遺構外出土遺物観察表

器種等	部位	計測値 (cm)			色調	胎土	調整・文様等
		器高	口径	底径			
1 赤生土器 蓋	口縁部	—	—	—	暗淡褐色	長石、石英、 雲母	内面ヨコナデ、外面ヨコナデ、 L口唇部に縄文
2 灰土器 壺	胴部	—	—	—	灰白色		内面ナデ調整、外面タタキ
3 土師器 杯	L口縁部	—	—	—	淡褐色		内面ハケ目状のナデ、 外面ナデ調整
4 石器 石鏃	—	1.5 (最大長)	1.2 (最大幅)	0.3 (最大厚)	黒色	黒曜石	
5 石器 銅片	—	2.2 (最大長)	2.5 (最大幅)	0.8 (最大厚)	暗緑黄色	珪質頁岩	
6 滑石 黒石	—	5.6 (最大長)	4.9 (最大幅)	1.6 (最大厚)	白色～緑灰色	滑石	
7 石器 銅片	—	4.4 (最大長)	5.2 (最大幅)	0.9 (最大厚)	青灰色	凝灰岩系?	

第5節 土層説明一覽

土層説明一覽表 (1)

通称名	層番号	十色	上層説明
01 D	1	暗褐色～黒褐色	灰土。耕作土によるカクラン。
	2	黑色～黒褐色	粘性あり。しまりあり。微細な焼土粒を少量含む。
	3	黒褐色	粘性あり。しまりあり。微細な焼土粒、炭化物粒含む。
	4	暗褐色	粘性あり。しまりあり。微細な焼土粒、炭化物粒混じる。
	5	淡褐色	粘性なし。しまりあり。耕作土か。
	6	淡暗褐色	粘性あり。しまりやや弱い。ロームブロック混じる。
01 D ¹	1	褐色	粘性あり。しまりあり。焼土粒含む。
	2	赤褐色	粘性なし。しまりなし。焼土塊層。
	3	淡褐色	粘性あり。しまりややあり。焼土粒、炭化物粒含む。
	4	暗褐色	粘性あり。しまりあり。焼土粒含む。
	5	淡褐色	粘性あまりなし。しまりあり。焼土粒多く含む。
02 D	1	褐色～黒褐色	灰土。耕作土によるカクラン。
	2	黒褐色	粘性あり。しまりあり。ローム粒混じる。
	3	黒褐色	粘性あり。しまり1層よりあり。ロームブロック混じる。1層よりやや明るい土色
	4	黒褐色	粘性あり。しまりあり。ローム粒わずかに混じる。
	5	暗褐色	粘性あり。しまり非常に強い。ローム粒混じる。
	6	淡褐色	粘性あり。しまりあり。ローム粒混じる。
02 D ¹	7	赤褐色	粘性あり。しまりあり。ハードローム層
	1	黒～暗褐色	粘性あり。しまりあり。焼土粒含む。
	2	淡褐色	粘性あり。しまりあり。焼土粒多く含む。炭化物粒混じる。
	3	暗褐色	粘性なし。しまりありあり。焼土粒多く含む。炭化物粒混じる。
	4	褐色	粘性あり。しまりあり。土混じりの焼土層。
03 D	5	褐色	粘性あり。しまりあり。焼土粒多く含む。
	1	黒色～暗褐色	灰土。耕作土によるカクラン。
	2	黒色～黒褐色	粘性ややあり。しまりあり。焼土粒含む。
	3	暗褐色	粘性ややあり。しまりあり。焼土粒、ローム混じる。
	4	黒褐色～暗褐色	粘性あり。しまりあり。ローム、焼土、炭化物粒混じる。
	5	暗褐色	粘性あり。しまりあり。ハードロームと焼土混じる。
	6	黒褐色	粘性あり。しまりあり。焼土粒、炭化物粒混じる。
	7	暗褐色	粘性ややあり。しまりあり。焼土粒、炭化物粒混じる。
	8	淡褐色	粘性あり。しまりあり。焼土粒、炭化物粒、ローム混じる。
	9	黄褐色	粘性あり。しまりあり。ハードローム層
03 D ¹	10	褐色	粘性あり。しまりあり。ソフトローム層
	1	黒色	粘性あり。しまりあまりなし。焼土粒含む。
	2	暗褐色	粘性あり。しまりあり。焼土と黒色土混じる。
	3	赤褐色	粘性なし。しまりあり。焼土層。焼熱により赤変している。
	4	褐色	粘性あり。しまりあり。ローム層。
05 D	5	褐色	粘性なし。しまりあり。焼土層。
	1	赤褐色～黒褐色	粘性あり。しまりあり。耕作土。
	2	暗褐色	粘性あり。しまりあり。ローム粒混じる。
05 D ¹	3	褐色	粘性あり。しまりあり。ソフトローム層。
	1	黒色～褐色	粘性あまりなし。しまりあり。焼土と炭化物粒混じり土
06 D	2	赤褐色	粘性なし。しまりあり。如床。焼熱によりロームが赤変硬化した層。
	3	黄褐色	粘性あり。しまりあり。ハードローム
	1	暗褐色～黒褐色	粘性あり。しまりあり。耕作土。
06 D ¹	2	褐色	粘性あり。しまりあり。ロームブロック。
	3	褐色	しまりあり。粘性あり。ソフトローム層。
	1	黒色～赤褐色	粘性ややあり。しまりあり。焼土、炭化物粒、褐色土混じりの層。
10 D	2	赤褐色	粘性なし。しまりあり。如床。焼熱により赤変している。
	3	黄褐色	粘性あり。しまりあり。ハードローム層。
	1	黒色～淡褐色	耕作土。
	2	黒色	粘性ややあり。しまりあり。微細な焼土粒含む。
	3	暗褐色～淡褐色	粘性あり。しまりやや弱い。焼土粒、ローム粒含む。
	4	暗褐色	粘性ややあり。しまりあり。焼土粒多く含む。
	5	褐色	粘性ややあり。しまりあり。焼土粒、炭化物粒混じる。
	6	淡褐色	粘性あり。しまりあり。焼土粒、焼土塊含む。
	7	暗淡褐色	粘性あり。しまりあり。焼土粒、ローム粒含む。
8	淡褐色	粘性あり。しまりやや弱い。焼土粒、炭化物粒多く含む。	
9	黄褐色	粘性あり。しまりあり。ハードローム層。	

土層説明一覧表 (2)

10 D 層	1	暗褐色～淡黄褐色	粘性あり。しまりあり。焼土較混じる。
	2	暗褐色～淡黄褐色	粘性あり。しまりあり。焼土粒、炭化物粒混じる。
	3	淡褐色	粘性ややあり。しまりややあり。焼土塊と焼土粒、炭化物粒混じり多。
	4	赤褐色	粘性なし。しまりあり。焼土塊。
11 D	1	黒色～暗褐色	酥性土。
	2	やや暗い褐色	粘性あり。しまりあり。黒色土わずかに混じる。
11 D 層	1	新褐色	粘性ややあり。しまりあまりなし。焼土混じる。
	2	黒色～褐色	粘性あまりなし。しまりあまりなし。焼土、炭化物混じる。
	3	やや暗めの褐色	粘性あまりなし。しまりあまりなし。焼土粒混じる。
	4	暗褐色	粘性ややあり。しまりあり。焼土、炭化物混じる。
	5	淡褐色	粘性あまりなし。しまりあまりなし。焼土、炭化物混じる。

第3章 成果と課題

今回の調査では縄文時代の陥穴3基、弥生時代の堅穴建物跡6棟、古墳時代の堅穴建物跡1棟を検出した。過去3地点の調査において近世の溝跡を除き弥生時代の堅穴建物跡のみが検出されていることから、弥生時代以外の遺構については今回新発見となる。

縄文時代については、隣接する北裏畑遺跡、川崎山遺跡でも陥穴が検出されており、堅穴建物跡については、川崎山遺跡の西端にあたるm地点において、中期の堅穴建物跡が検出されているのみである。このことから、3遺跡の接する中島支谷から新川にかけての帯が、陥穴を利用した狩猟の場であったと考えられる。

弥生時代については過去の調査では散発的に検出されていた堅穴建物跡が、集中して検出されている。地形と遺構の分布から、堅穴建物跡の分布の中心付近が調査されたと考えることができ、調査の行われていない東側へ展開していく可能性がある。

古墳時代については、堅穴建物跡から滑石製紡錘車未製品や白玉未製品及び剥片等が見つかっており、北側に位置する萱田遺跡群や川崎山遺跡、南側の小板橋遺跡や環場台遺跡と併せて新川上流域の西岸一帯に展開する石製模造品の製作跡の一つであることが明らかになった。遺跡北東の台地先端には上の山古墳が存在することもあり、今後古墳時代の遺構の検出が期待される。

過去の調査結果等とあわせた遺構の分布や本遺跡の所在する地形から考えて、本報告時点において周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲外となっている新川谷と中島支谷に挟まれた台地上東側へと遺構が展開していくと考えられる。

参考文献

- 八千代市史編さん委員会 (1978年) 『八千代市の歴史』
- 八千代市史編さん委員会 (1991年) 『八千代市の歴史 資料編 原始・古代・中世』
- 八千代市史編さん委員会 (2008年) 『八千代市の歴史 通史編』
- 八千代市遺跡調査会 (2000年) 『千葉県八千代市上ノ山遺跡 b・c 地点発掘調査報告書』
- 八千代市遺跡調査会 (2008年) 『千葉県八千代市上ノ山遺跡 -埋蔵文化財発掘調査報告書-』
- 八千代市遺跡調査会 (1980年) 『萱田町川崎山遺跡発掘調査報告』
- 八千代市遺跡調査会 (1999年) 『千葉県八千代市川崎山遺跡』

八千代市遺跡調査会 (2003年) 『千葉県八千代市川崎山遺跡 d 地点』
八千代市遺跡調査会 (2006年) 『千葉県八千代市川崎山遺跡 k 地点』
八千代市教育委員会 (2008年) 『千葉県八千代市川崎山遺跡 m 地点発掘調査報告書』
八千代市教育委員会 (2008年) 『千葉県八千代市川崎山遺跡 n 地点発掘調査報告書』
八千代市遺跡調査会 (2008年) 『千葉県八千代市川崎山遺跡』
八千代市教育委員会 (1980年) 『池ノ台遺跡』
八千代市教育委員会 (1986年) 『千葉県八千代市池の台遺跡』
八千代市教育委員会 (2010年) 『千葉県八千代市池の台遺跡 g 地点発掘調査報告書』
勸業県文化財センター (1991年) 『八千代市白幡前遺跡』
八千代市教育委員会 (2009年) 『千葉県八千代市白幡前遺跡 c 地点』
八千代市教育委員会 (2016年) 『千葉県八千代市白幡前遺跡 d 地点』
八千代市教育委員会 (2016年) 『千葉県八千代市白幡前遺跡 e 地点』
八千代市教育委員会 (2014年) 『千葉県八千代市塚場台遺跡 a 地点』
八千代市遺跡調査会 (2008年) 『千葉県八千代市小板橋遺跡』
八千代市教育委員会 (2013年) 『千葉県八千代市小板橋遺跡 d 地点』
八千代市教育委員会 (2003年) 『千葉県八千代市不特定遺跡発掘調査報告書 1』
八千代市教育委員会 (2003年) 『千葉県八千代市公共事業関連遺跡発掘調査報告書』
八千代市教育委員会 (2008年) 『千葉県八千代市不特定遺跡発掘調査報告書 V-』
八千代市教育委員会 (1992年) 『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成3年度』
八千代市教育委員会 (1994年) 『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成5年度』
八千代市教育委員会 (1998年) 『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成9年度』
八千代市教育委員会 (1999年) 『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成10年度』
八千代市教育委員会 (1999年) 『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成11年度』
八千代市教育委員会 (2000年) 『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成12年度』
八千代市教育委員会 (2003年) 『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成14年度』
八千代市教育委員会 (2005年) 『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成16年度』
八千代市教育委員会 (2009年) 『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成20年度』
八千代市教育委員会 (2010年) 『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成21年度』
八千代市教育委員会 (2011年) 『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成22年度』
八千代市教育委員会 (2013年) 『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成24年度』
八千代市教育委員会 (2015年) 『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成26年度』
八千代市教育委員会 (2016年) 『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成27年度』
八千代市教育委員会 (2017年) 『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成28年度』
八千代市教育委員会 (2019年) 『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成30年度』
八千代市教育委員会 (2020年) 『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 令和元年度』
八千代市教育委員会 (2021年) 『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 令和2年度』

図版 1



調査前全景



1区全景



2区全景



3区全景



4区全景



01P全景



02P全景



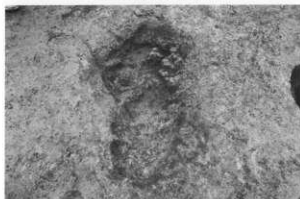
03P全景



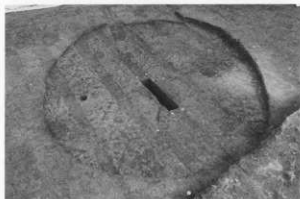
01D 遺物出土状況



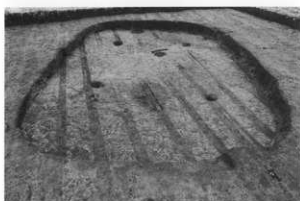
01D 全景



01D 炉全景



02D 全景



03D 全景



03D 土層断面 (A-A')



03D 土層断面 (C-C')



03D 土層断面 (B-B')

図版3



03D 遺物出土状況 (1)



03D 遺物出土状況 (2)



05D 全景



06D 全景



10D 全景



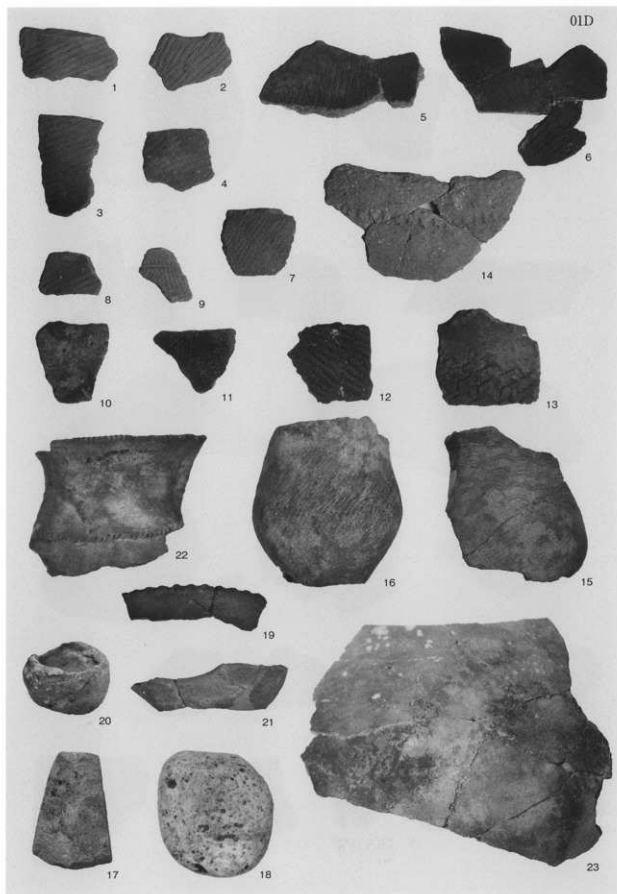
10D 遺物出土状況



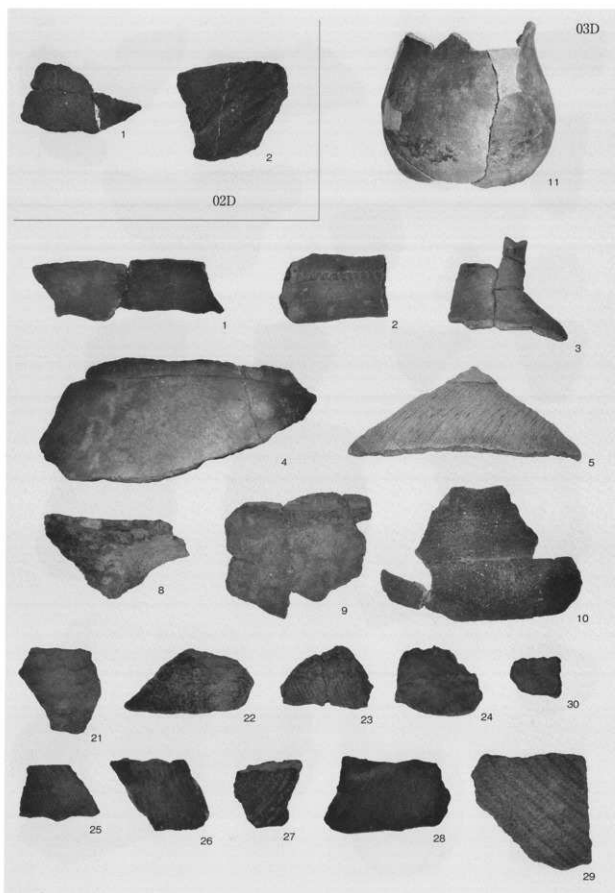
11D 全景



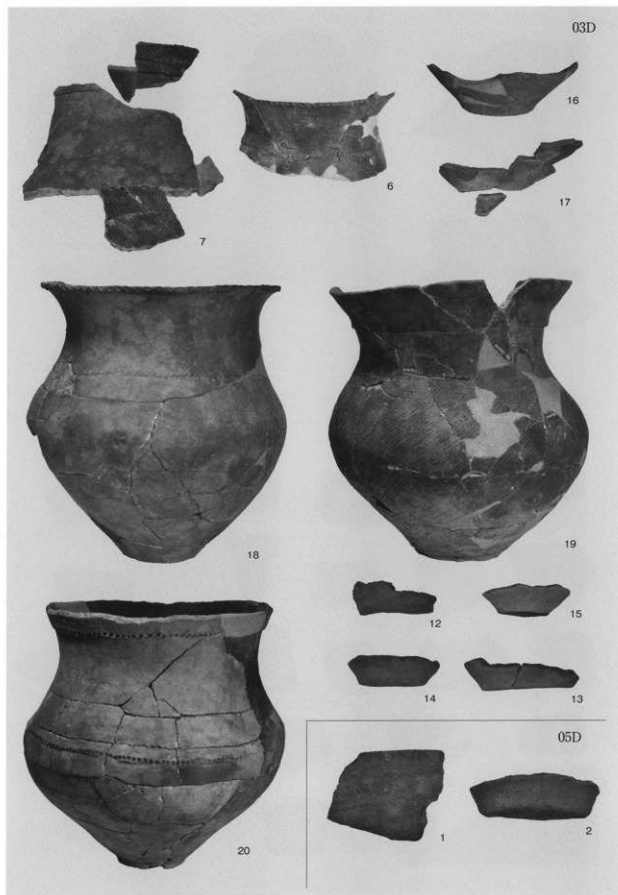
11D 遺物出土状況



01D出土遺物

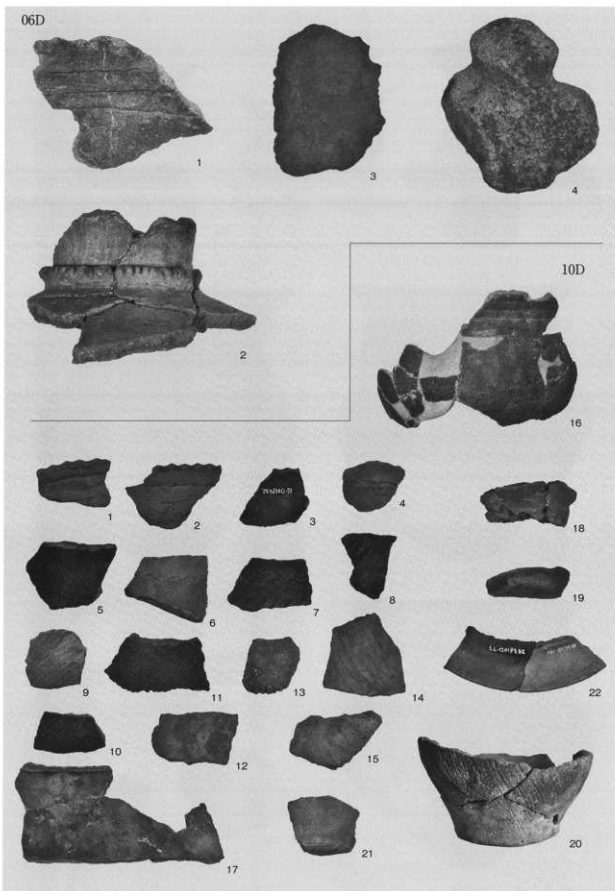


02D・03D出土遺物

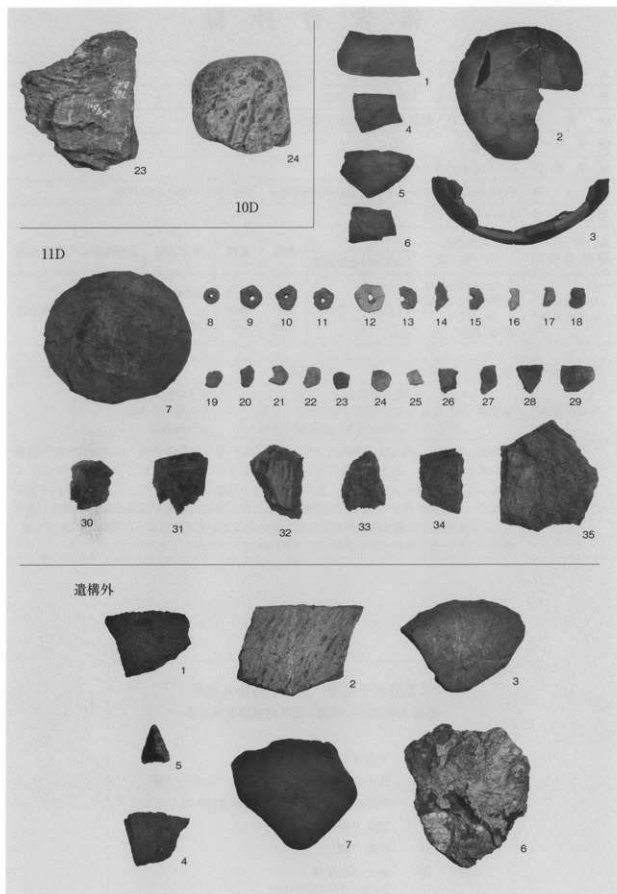


03D·05D出土遺物

図版7



06D・10D出土遺物



10D・11D・遺構外出土遺物

報告書抄録

ふりがな	ちばげんやちよし うえのやまいせきでいーちてん							
書名	千葉県八千代市 上の山遺跡d地点							
副書名	宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
編著者名	宮下聡史							
編集機関	八千代市教育委員会							
所在地	〒276-0045 千葉県八千代市大和田138番地2 TEL 047 (483) 1151代表							
発行年月日	令和4年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
うえのやまいせき 上の山遺跡	かやだまちあがかのやま 萱田町字上ノ山927-1 の部、927-5、 927-6、927-7	12221	243	35度 43分 10秒	140度 06分 34秒	20200420 ～ 20200701	1275.38	宅地造成

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
上の山遺跡	集落跡	弥生、古墳、奈良・平安	縄文時代陥穴 3基、 弥生時代竪穴建物跡 6棟、 古墳時代竪穴建物跡 1棟	縄文時代石器、弥生土器、 古墳時代土師器、 石製模造品	
要約			調査において、縄文時代の陥穴3基、弥生時代の竪穴建物跡6棟、古墳時代の竪穴建物跡1棟を検出した。過去の調査から弥生時代の集落として認識され、今回の調査においても弥生時代の遺構を多数検出し、集落の広がりを確認できた。また、これまで検出されていなかった縄文時代と古墳時代の遺構を検出した。周辺の地形や近隣の遺跡の状況と併せて、陥穴を利用した縄文時代の狩猟の場であったことが見て取れる。古墳時代においては、新川の西岸一帯に所在する石製模造品の製作跡の一つであることがわかった。		

千葉県八千代市 上の山遺跡d地点
一宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一

発行日 令和4年3月31日
編集 八千代市教育委員会 文化・スポーツ課
〒276-0045 八千代市大和田138-2
TEL 047-481-0304
発行 中蓋 昭
印刷 金子印刷企画
千葉県八千代市萱田410-1